

第4回 市民科学者国際会議 円卓会議

「今後の展望と行動計画」

話題提供：早尾貴紀

311受入全国協議会

「保養」と「避難移住」

- 確実な脱被曝の方策としての
保養と避難移住
- 基本的には政府と自治体が
担うべきだが、不作為の現状

震災直後からの民間の活動

- 一貫する政府の安全キャンペーン
避難を最小限にとどめるあからさまな意図

→震災直後から保養と避難の
受け入れを進めてきたのは
一般市民、民間団体

行政と民間の差

保養や避難を大規模に進めるには、公的な資金力と動員力が必要。行政の不作為を打開するためのロビー活動や法廷訴訟は、時間がかかるうえに成果も限定的。

他方、民間の動きは、迅速かつ柔軟だが、資金力(規模)と継続性に限界がある。

311受入全国協議会

- 311受入全国協議会：

保養と避難移住を担う民間団体の全国ネット

保養キャンプ、常設保養、リフレッシュ企画

母子疎開、避難移住、定住支援などを担う

全国の受け入れ団体と、被災地内で保養や

避難を進める団体の、両方が加盟

うけいれ全国の役割

民間団体の活動の難点を補う

- 被災地の団体と受け入れ団体とのつなぎ
- 被災地での相談窓口設置（現地相談会）
- 保養ファンドで実施団体に資金助成
- 避難移住の受け入れ自治体情報の集約
- 行政と学校とも協力をした移動教室支援
- 全国の受け入れ情報の共有と活動の改善

今後の活動

2014年11月30日に福島県郡山で、「いのちと希望の全国交流会」開催。

これまでの活動を総括しつつ、今後の展望を全国の団体で議論。

(また2年程度をメドに仕切り直す。)